

観点 1 知識・技能 2 思考・判断・表現 3 主体的に学習に取り組む態度

指導単元	観点	単元の評価基準	具体的評価基準（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
第1章 正の数と負の数	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数・負の数の四則計算やその表現と意味のよみとり、合理的に操作、処理したりすることができる。</li> <li>・負の数の必要性、正の数と負の数の意味や四則計算の意義を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数・負の数を用いて、身の回りのいろいろな事象を表すことができる。</li> <li>・正の数・負の数を用いて反対の方向や性質を表すことができる。</li> <li>・正の数・負の数を数直線上に表したり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。</li> <li>・正の数・負の数の四則計算ができる。</li> <li>・加法と減法の混じった式を、正の項や負の項の和として表すことができる。</li> <li>・正の数・負の数の意味を、これまでの経験や日常生活の具体的な場面などに結び付けて理解している。</li> <li>・符号（+、-）や自然数、整数の意味を理解している。</li> <li>・正の数・負の数の大小関係、不等号や絶対値の意味を理解している。</li> <li>・正の数・負の数についても、加法、乗法に関して交換、結合や分配法則が成り立つことを理解している。</li> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することによって、加法と減法を統一的にみることができていることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・小レポート</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> <li>・ICT活用</li> </ul>
	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数・負の数などについての基礎的な知識の習得や活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもって筋道を立てて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することで、最高気温の前日との差などを、正の数・負の数を用いて考えることができる。</li> <li>・反対の方向や性質を表す場面で、正の数・負の数を用いて考えることができる。</li> <li>・これまでの計算をもとにして、正の数・負の数の計算の方法を考えることができる。</li> </ul>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することで、計算の可能性が広がることに気付き、加法と減法を統一的にみることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象を正の数と負の数などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数と負の数に関心を持ち、その必要性と意味を考えたり、正の数と負の数を用いて、身の回りの様々な事象を表したりしようとしている。</li> <li>・正の数と負の数の四則計算に関心を持ち、その意味や計算の仕方を考えたり、計算したりしようとしている。</li> <li>・正の数と負の数を用いることに関心を持ち、様々な事象における変化や状況を表したり処理したりしようとしている。</li> </ul>		
第2章 文字の式	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いた式での表現とその意味のよみとり、文字を用いた式における乗法、除法、一次式の加法、減法ができ、合理的に操作、処理したりすることができる。</li> <li>・一次式や文字を用いることの意義を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて式に表したり、式の意味をよみとったりすることができる。</li> <li>・文字を用いた乗法、除法の式を、約束に従って適切に表すことや、簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。</li> <li>・文字に値を代入して、式の値を求めることができる。</li> <li>・文字を用いることで数量やその関係・法則を一般的に表現したり、式からその意味をよみとったりすることができることを理解している。</li> <li>・文字を用いた式における乗法、除法の表し方や、一次式の加法、減法における項のまとめ方を理解している。</li> <li>・式の値の意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や文字を用いた式などについての基礎的な知識の習得や活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもち筋道を立てて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、一般的に考えることができる。</li> <li>・<math>a+b</math>、<math>ab</math> など、文字を用いた式は、それぞれ加法、乗法を表しているとともにそれらの結果も表しているとみることができる。</li> <li>・文字に値を代入することで、文字を用いた式を具体的な事象に適用して考えることができる。</li> </ul>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いた式の計算も数の計算と同じようにみて計算の方法を考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象を文字や文字を用いた式などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いることに関心を持ち、その必要性和意味を考えたり、文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったりしようとしている。</li> <li>・文字を用いた式の計算に関心を持ち、その計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。</li> <li>・文字を用いた式を活用することに関心を持ち、数量の関係や法則などを表したり、その意味を読み取ったり、式の値を求めたりしようとしている。</li> </ul>		
第3章 方程式	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を一元一次方程式に表し、これを解いたり、合理的に操作、処理したりすることができる。</li> <li>・一次方程式及びその解の意味、等式の性質や文字を用いることの意義を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一元一次方程式をつくることができる。</li> <li>・一元一次方程式に値を代入して、その数が解であるかどうか確かめることができる。</li> <li>・簡単な一元一次方程式を解くことができる。</li> <li>・一元一次方程式を解くとき、どの等式の性質が使われているのか説明することができる。</li> <li>・一元一次方程式をつくったり、その解を求めたりするとともに、その手順や解の適否を説明することができる。</li> <li>・一元一次方程式及びその中の文字や解の意味について理解している。</li> <li>・等式の性質と移項の関係を理解している。</li> <li>・一元一次方程式の解き方を理解している。</li> <li>・一元一次方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式などについての基礎的な知識の習得や活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもち筋道を立てて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象には、文字を用いると簡単な等式に表せるものがあることに気付き、文字に当てはまる数について考えることができる。</li> <li>・等式の性質と移項の関係について考えることができる。</li> <li>・等式の性質をもとに一元一次方程式の解き方を考えることができる。</li> </ul>		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、一元一次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうか振り返って考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象を方程式などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式とその解に関心を持ち、その必要性和意味を考えたり、様々な数を代入するなどして自分なりの方法で解を求めたりしようとしている。</li> <li>・等式の性質と移項及びその関係に関心を持ち、一元一次方程式を解こうとしている。</li> <li>・一元一次方程式を活用することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</li> </ul>		
第4章 変化と対応	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの数量の変化を比例、反比例の関係としてとらえ、表、式、グラフなどを用いて表現したり、数学的に処理したりすることができる。</li> <li>・比例、反比例の関係や座標の意味、比例、反比例の関係を表す表、式、グラフの特徴、問題解決への利用の仕方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例、反比例の関係を式で表すことができる。</li> <li>・文字を変数として扱うことができる。</li> <li>・比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。</li> <li>・比例、反比例の表、式、グラフを用いて具体的な事象を表現したり、処理したりすることができる。</li> <li>・変数と変域の意味を理解している。</li> <li>・事象の中には比例、反比例を用いてとらえられるものがあることを知り、比例、反比例の意味を理解している。</li> <li>・変化や対応の様子、グラフの形、<math>y=ax</math>や<math>y=a/x</math>の<math>a</math>の意味など、比例、反比例の特徴を理解している。</li> <li>・座標を用いて、平面上の点が一意的に表されることを理解している。</li> <li>・比例、反比例の見方や考え方を、どのような場面でどのように用いるかを理解している。</li> <li>・比例、反比例の見方や考え方をを用いると、事象を考察したり、予測したりすることができることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>

	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象の中にある対応関係や依存、因果などの関係に着目するなどして、変化や対応などについての見方や考え方を身に付け、事象に潜む関係やきまりをとらえたり、見通しをもち順序よく筋道を立てて考えたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、比例、反比例の関係になるものがあることに気付く。</li> <li>・比例、反比例の特徴を、表、式、グラフなどを用いて考えることができる。</li> <li>・具体的な事象を、比例、反比例の見方や考え方を生かして変域を意識しながら調べ、その結果が適切であるかどうか振り返って考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象を比例、反比例などでとらえたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数関係に関心を持ち、その関係を表やグラフなどで表したり、変化や対応の様子をとらえたりしようとしている。</li> <li>・比例、反比例の関係に関心を持ち、具体的な事象の中から比例、反比例の関係としてとらえられる二つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。</li> <li>・比例、反比例の特徴に関心を持ち、表、式、グラフなどを用いて考えようとしている。</li> <li>・比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</li> </ul>		
第5章 平面図形	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形などの図形を基本的な作図方法などによって適切に表現したり、操作や実験を適切に行い、基本的な図形の計量を行ったりできる。</li> <li>・線対称や点対称などの平面図形についての性質や関係、基本的な図形の作図や図形の計量の仕方などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形に関する記号の使い方がわかる。</li> <li>・基本的な作図方法がわかる。</li> <li>・「作図」の方法で、角の二等分線、円の接線などを作図することができる。</li> <li>・「作図」の手順を説明することができる。</li> <li>・円の半径と接線との関係、弧や弦の意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形についての基礎的な知識の習得や活用を通して、対称性に着目したりするなど、図形に対する直観的な見方や考え方を身に付け、筋道を立てて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、操作や実験を通して、基本的な平面図形を対称性の観点から考えたり、とらえ直したりすることができる。</li> <li>・角の二等分線などの「作図」の方法を、対称性に着目して考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の開発</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作図」した図形が条件に適するものであるか 否かを振り返って考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象を平面図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な作図に関心を持ち、その方法を考えたり、問題の解決に生かしたりしようとしている。</li> <li>・平行移動、対称移動及び回転移動に関心を持ち、図形を移動したり、移動の前後の二つの図形の間を関係を考えたりしようとしている。</li> </ul>		
第6章 空間図形	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間図形などの図形を見取図、展開図によって適切に表現したり、空間図形を直線や平面図形の運動によってとらえ、操作や実験を適切に行い、基本的な図形の計量を行ったりできる。</li> <li>・空間における直線や平面の位置関係及び基本的な図形の性質や図形の計量の仕方などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体模型などを用いて、空間における直線や平面の位置関係には、どんな場合があるか説明することができる。</li> <li>・直線や平面図形の運動による柱体・錐体などの空間図形の構成の仕方を、言葉や図などを用いて説明することができる。</li> <li>・見取図や展開図を用いて空間図形を表したり、見取図や展開図から空間図形やその性質をよみとったりすることができる。</li> <li>・おうぎ形の弧の長さや面積や柱体・錐体の表面積と体積を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。</li> <li>・空間における直線や平面の位置関係を分類することができる。</li> <li>・柱体・錐体などの空間図形は、直線や平面図形の運動によって、立体が構成されることを理解している。</li> <li>・回転体の意味を理解している。</li> <li>・見取図と展開図の意味や役割を理解している。</li> <li>・円周率を記号「<math>\pi</math>」と表すことの意味を理解している。</li> <li>・柱体・錐体の表面積（底面積、側面積）と体積の意味やその求め方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>

	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間図形についての基礎的な知識の習得や活用を通して、直線や平面図形の運動によって構成されているものにとらえたりするなど、図形に対する直観的な見方や考え方を身に付け、筋道を立てて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における直線と直線、直線と平面、平面と平面の位置関係について、見通しをもち、観察、操作や実験を通して、考えることができる。</li> <li>柱体・錐体などの空間図形が直線や平面図形の運動によって構成されているとみることができる。</li> <li>空間図形の性質を見取図や展開図を目的に応じて用いて調べ、空間図形を平面図形に帰着させて考えることができる。</li> <li>おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を、中心角の大きさとの関係に注目して考えることができる。</li> <li>観察、操作や実験を通して、柱体・錐体の表面積の求め方を考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な事象を空間図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における直線や平面に関心をもち、それらの位置関係について考えようとしている。</li> <li>空間図形の構成に関心をもち、直線や平面図形の運動によって、どの空間図形が構成されるかを考えようとしている。</li> <li>見取図、展開図、投影図に関心をもち、それらを用いて空間図形を表したり、読み取ったりしようとしている。</li> <li>扇形の弧の長さや面積や、柱体、錐体、球の表面積と体積に関心をもち、その求め方を考えようとしている。</li> </ul>		
第7章 データの活用	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして度数分布表やヒストグラムを作ったり代表値を求めたりすることができる。</li> <li>資料を整理する方法や代表値、数量の表現方法などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料を整理することができる。</li> <li>問題を解決するため、代表値などを求めることができる。</li> <li>課題を解決するために、ヒストグラムや代表値を用いて、整理することができる。</li> <li>度数分布表やヒストグラム、相対度数などの必要性和意味を理解している。</li> <li>代表値などの必要性和意味を理解している。</li> <li>課題を解決するために、ヒストグラムや代表値、相対度数などをどのように用いればよいかを理解し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ノート</li> <li>ワーク</li> <li>振り返りシート</li> <li>レポート課題</li> <li>定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導</li> <li>机間指導</li> <li>指導助言</li> <li>指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>教材の開発</li> </ul>

			ている。		
	2	<p>・目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして度数分布表やヒストグラムを作ったり代表値を求めたりするとともにヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえて説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料の傾向を読み取り説明することができる。</li> <li>・問題を解決するために、代表値などを用いて、資料の傾向をとらえて説明することができる。</li> <li>・有効数字を使って表すと、どこまでが意味ある数字かが分かるという良さを考えることができる。</li> <li>・資料を整理して傾向をとらえ、ヒストグラムや代表値などを用いて、説明することができる。</li> </ul>		
	3	<p>・目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして度数分布表やヒストグラムを作ったり代表値を求めたりすることに関心をもつとともにヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえて説明しようとする態度を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料を整理しようとしている。</li> <li>・問題を解決するため、代表値などを求めようとしている。</li> <li>・課題を解決するために、ヒストグラムや代表値を用いて、整理しようとしている。</li> </ul>		